

今年も残り数日となりました。冬休みは短いですが、家族と共に過ごす時間が多く、話す機会もたくさんあると思います。

「学ぶ」とは、学校で教科書を中心に学ぶ内容だけでなく、学校では教える機会のない生活や社会・文化に関する知識も含まれます。この2つを身に付けることは、精神的な発達が促され豊かな人生を送る基盤になると言われています。

冬休みは、この知識を身に付けるのに絶好な機会です。子供が親に疑問を投げかけることができればいいのですが、性格や興味の幅によっても違うと思います。親から子へ「これを何というか知ってる?」「これは何のために行うか知っている?」など聞いてみてはいかがでしょうか。



## ◆年末クイズ～何と読むでしょうか。お子さまに投げかけてみては?◆

|     |    |     |          |
|-----|----|-----|----------|
| 千支  | 初詣 | 鏡餅  | 一陽来復     |
| 大晦日 | 若水 | 神楽  | 笑う門には福来る |
| 元旦  | 門松 | 祝詞  | 一富士二鷹三茄子 |
| 御神酒 | 雑煮 | 書初め |          |

## こんな質問がありました！

Q. 「字が上手に書けません。どうしたらいいのでしょうか。」

A. ちょっとの工夫を試してみましょう。

字が上手に書けない、と悩んでいる子はたくさんいます。周囲の人から字について何かを言われたとき、心が傷ついたり、誤解されたりすることを多く見受けれます。

そもそも、字を上手に書くためには何が必要でしょうか。見る、書くという動作には、視覚的認知や手の微細運動などの機能が用いられます。つまり、見るのに困難があるのか書くのに困難があるのか、です。たとえば、正しく見えず歪んでみえると書くのも歪んでしまいます。細かい手指の動作に困難があると思ったとおりに線や曲がりを書くことができません。さらに、鉛筆の先一点に集中することも大切です。ですから、その子に合う支援の仕方が必要となります。

見る支援……目に入る情報を少なくする。文字を拡大する。

書く支援……漢字ノートや連絡帳などのマス目を大きくする。鉛筆にグリップを付ける。

鉛筆の芯を2B や4B など軟らかいものにする。

集中する支援……周囲の音や余計な光を遮断する。書く量を調整する。